

令和8（2026）年度 第1回管理者研修報告書

開催日時：令和8年6月19日（金）

作成者氏名：しおみの丘 秋田雅治

参加機関（参加者氏名）

Aグループ（おか・きたよし地区）

しおみの丘：松平氏、いきもの語り：八神氏、ていーせる：戸井氏、北風と太陽みよし：大門氏、ドリームアップ：松田氏、にこたむ：近藤氏

Bグループ（なかよし地区）

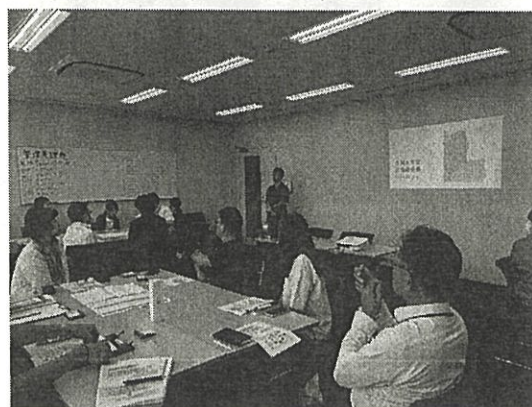
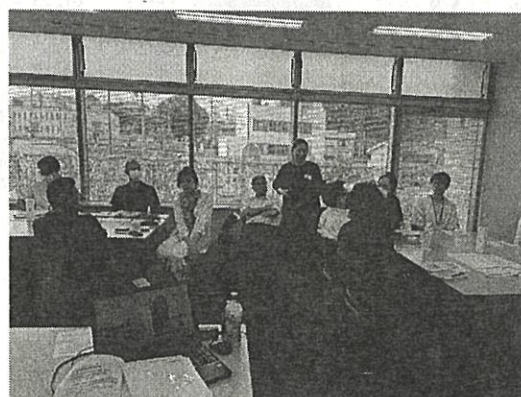
わらび：熊谷氏、さくらの丘：谷口氏、みよし市社協：村松氏、はたらく協議会：山口氏、まほろば：福井氏、えがお：山本氏

Cグループ（みなよし地区）

泰山寮：鈴木氏・大嶋氏、オーケーサポート：大沼氏、ポラリス：松原氏、なないろ：伊藤氏、木ノ葉：斎藤氏、みよしカインドハウス：川口氏、今井氏

スケジュール

- 10：00 研修開始・事務局、福祉課挨拶
- 10：05 管理者研修の目的・経緯を事務局より説明
- 10：15 トークセッション（福祉避難所の現状について）
- 10：30 グループワーク① 防災備品リストの作成
- 10：20 全体共有
- 10：25 グループワーク② 第2回までのスケジュール作成
- 10：45 まとめ・総評
- 10：55 事務連絡



みよし市の強度行動障がい児者の居場所を地域でつくる連絡会の仕組み

～情報を共有し、支え合い、将来の受け入れにつなげるネットワーク～

放課後等デイサービス事業所

子どもたちの「今」を支え、
困りごとや支援の工夫を共有します



共有する情報（例）

- ・ 基本情報（年齢、特性など）
- ・ 現在の支援状況
- ・ 困っていること
- ・ 支援の工夫や成功事例
- ・ 医療・服薬の状況
- ・ 家庭の状況・希望
- ・ 将来の見通し など

年2回の連絡会を開催 （上期・下期）



～情報を共有し、経過を追い続ける～

メリット（放デイ）

- ・ 現在困っている支援を発信できる
- ・ 生活介護事業所の視点での助言や支援方法を得られる
- ・ 支援の幅が広がる

メリット（生活介護）

- ・ 早い段階から情報を得られる
- ・ 将来の受け入れのハードルが下がる
- ・ 見学や交流の機会につながる
- ・ 支援スキルの向上につながる

生活介護事業所

将来の受け入れを見据え、
支援の準備やスキルアップにつなげます



情報を活かした取り組み（例）

- ・ 将来の利用候補者を把握
- ・ 支援方法の検討・事例検討
- ・ 職員のスキルアップ研修
- ・ 見学・体験の受け入れ
- ・ 受け入れ体制の整備

一人ひとりの
情報を継続して
共有することで、
変化や成長を
みんなで把握！

子どもたちの成長の経過をみんなで見守り、つないでいく



小学生

初めてのことが苦手
こだわりが強い



中学生

不安が強く、
パニックになることがある



高校生

集団が苦手
コミュニケーションが難しい



卒業後（18歳～）

将来の生活や
働くことへの不安がある

早い段階から
関わることで、
スムーズな移行と
安心できる居場所につなげられます！

放デイから生活介護へつなぐ



- ・ 本人の特徴や支援のポイントを引き継ぐ
- ・ 見学や体験利用を通じて、本人と事業所の相性を確認
- ・ 本人と家族の安心につながる

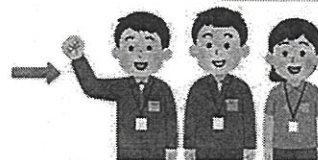
卒業後のスムーズな移行（受け入れ）へ…



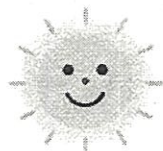
地域全体で支え合うことで…

- ・ 支援の質の向上
- ・ 事業所同士のつながり強化
- ・ 困ったときに相談できる関係づくり

受け入れの幅が広がる



- ・ 支援スキルの向上で自信がつく
- ・ 体制が整い、受け入れがしやすくなる
- ・ より多くの子どもたちの未来を支えられる



強度行動障がい児者の地域での居場所の確保

本人も家族も、安心して暮らし続けられる地域へ



みんなでつくる
やさしいまち



令和8（2026）年度 第1回児童部会 会議録

開催日時：令和8年6月23日（火）

時間：15：00から17：00まで

作成者氏名：相談支援事業所わらび 川北小有里

参加機関（参加者氏名）	
参加者名簿参照	
内容	
1 参加機関の紹介 2 報告・協議事項 (1) 令和8（2026）年度の地域自立支援協議会について (2) 令和8（2026）年度の運営目的等及び年間スケジュールについて (3) こども相談課ヒアリング内容 (4) 各関係機関ヒアリングについて 3 関係機関より報告 (1) こども相談課 ・児童発達支援分野資質向上研修と園訪問支援事業について ・ペアレント・トレーニングについて ・5歳児検診について (2) 学校教育課 ・「みよし・つながりシート」について (3) 助言機関より	
主な意見	
1 参加機関の紹介 ・福祉課の担当者が七里、花岡に代わり、事務局も森田が担う。 新たな構成員として、三好特別支援学校 高須氏、豊田特別支援学校 冷水氏、豊田市こども発達センター堀氏、こども相談課林氏、保育課小嶋氏、ふたば安井氏、よつば（ふたば）本松氏が今年度参加。 ・こども相談課清水氏が協力者として参加。 2 報告・協議事項 (1) 令和8（2026）年度の地域自立支援協議会について（花岡氏） 資料No1にて報告 (2) 令和8（2026）年度の運営目的等及び年間スケジュールについて（森田） 資料No2にて報告 目標①について 3か年目の3年目。「こどもの将来の不安」「福祉サービスの情報」 目標②について ・事務局の担当が代わったことで、市内の児童の支援体制の把握と課題の整理を行い、令和9年度に目標設定をすることになった。 ・放課後等デイサービス事業所連絡会について、開催目的を明確にし、運営体制を整えていく。	

- ・変更点については資料確認。

(3) こども相談課ヒアリング内容（別紙）（森田）

6月12日にこども相談課に一回目を実施。こども相談課は「こども家庭支援センター」として母子保健と児童福祉の両機能を担い、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を提供していることが確認された。特に、母子手帳交付時に全妊婦と面談する体制は、支援の必要性を早期に把握する上で大きな強みとなっている。一方で、精神疾患の既往歴を持つ保護者や複雑な家庭環境を抱えるケースの増加、自己肯定感が低く孤立しがちな保護者への対応、共働き家庭の増加に伴う父親支援の必要性などが課題として挙げられた。また、組織運営上の課題として、保健師不足や業務量の増加も指摘された。

(4) 各関係機関ヒアリングについて（別紙）（森田）

今年度の主要な取り組みとして、児童部会の全構成員が所属する機関を対象としたヒアリングの実施計画を提案。

ヒアリングでは「各機関の現状」「感じている課題」「児童部会に期待すること」の3点を共通項目として聞き取りを行う。これは事務局だけでなく、構成員が「今更聞けないこと」や「よく分かっていないこと」もお聞きし、具体的な質問事項はQRコードを通じて各構成員から募集し、日程は事務局が個別に調整を進めることが合意された。また、市内の児童福祉で中核を担う児童発達支援センターにもヒアリングへの協力を要請し、快諾を得た。

3 関係機関より報告

(1) こども相談課

●児童発達支援分野資質向上研修（林氏）

関係機関連携のため、研修を始めることになった。狙いとして、保健センターの実施事業とふたばやよつばを順に見学してもらうことで、児童発達支援分野を一連の流れとして捉える。園の先生は11名参加。

●園訪問支援事業について（別紙）（坪井氏）

昨年度児童部会からご助言いただき、園訪問相談支援者支援事業と名称を変更。平成29年度より市内在住のこどもが通う保育園幼稚園認定こども園の先生に対し、支援を行うことが目的。昨年度は72件依頼（例年40件程度）。今年度より保育課の事業へ移管。担当は立石氏。

昨年度からの変更点として、訪問する職員のマンパワーの課題があり、

① 電子システムからエクセルデータにパスワードをつけて依頼

② 記録は訪問員ではなく、園の先生に依頼

③数か月後のモニタリングを電子システムで申請

●ペアレント・トレーニングについて（林氏）

こどもとの関わりや子育ての悩みや不安を抱えている保護者に対し、講義やGW、ロールプレーを通じ、心身の発達に合わせた情報の提供や相談、助言の実施、また保護者同士の互いに悩みの共有をする場の提供を目的としている。

対象は1歳から就学前の保護者を募集。平均して13名ほどの参加がある。

●5歳児検診について（関根氏）

作業部会にて、3歳児検診や今ある既存の早期療育の仕組みがあるものの、就園してから集団の中で感じる課題や、園では心配していたものの就学相談につ

ながらないことがあり、保護者の理解が得られず支援が行き届かないことも考えられるのではないかと意見があった。みよし市の5歳児検診の目的は「保護者支援」。フォローアップ体制については、子育て支援を軸に相談の場の拡大を考え、就学を見据えた相談につなげる子育て支援を大事にしていける。

(2) 学校教育課

●「みよし・つながりシート」について

就学時の情報連携ツール「みよし・つながりシート」の改訂案が提示された。主な変更点は、保護者の心理的負担を考慮し、評価方法を従来の二重丸形式から「1～4」の段階評価へ変更したこと、そして項目を簡素化し「気になること」を自由に記述できる形式にした。

これに対し、保育園・幼稚園側から、シートの提出が保護者に「自分の子にレッテルが貼られる」という不安や、軽い気持ちで提出した結果、意図せず個別の教育支援計画が作成され戸惑うケースがあるとの現場の声が報告された。これらの意見から、シートの運用目的や支援計画作成の意図について、学校教育課と保育課・幼稚園の間で認識のズレがあることが明確になり、今後両者間ですり合わせを行っていく必要性が確認された。

(3) 助言機関より

ヒアリングの内容をみて、1機関だけでこれだけの課題があるのをどう整理するのか。

●地域アドバイザーより

こどもはすべてに通じるものであり、課題の優先順位は運営会議でも行う。一緒にやっていくため、部会構成員をいかに巻き込むかも必要。

決定事項

- ・次第にある令和8年2月を令和9年2月に修正。

2 (4) 関係機関へのヒアリングについて

QRコードにて構成員から各機関へのヒアリング内容を募る。また、児童発達支援センターチャイルドアイアイにも協力していただく。

3 (1) こども相談課より

児童発達支援分野資質向上研修について、園の先生に対しこういった役割を担っていただき、何を持ち帰ってもらうのかを再度周知する。名称に関しては検討。

(2) 学校教育課より

つながりシートに関して、学校教育課と保育課で目指すべきものを合わせる。

次回、令和9年2月19日（金）15：00～

令和8（2026）年度 第1回就労支援部会 会議録

開催日時：令和8年7月1日（水）

作成者氏名：横山 裕規

参加機関（参加者氏名）
相談支援地域アドバイザー阪田氏、西三河北部障がい者就業・生活支援センター山田氏・越智氏、豊田公共職業安定所田添氏、三好特別支援学校岡田氏、豊田特別支援学校太田氏、豊田高等徳ベル支援学校中根氏、学校教育課黒田氏、わらび稲石氏、しおみの丘堤氏、グラスホッパー山口氏、みよしはたらく協議会鶴田氏、福祉課七里氏、事務局江川・横山
議題（協議事項）
（1）福祉的就労について（2）一般高校との情報交換について
主な意見
（1）福祉的就労について ◆共同受注システムの現在の動きについて ・1事業所に業務依頼があり、他事業所に展開し4事業所で取り組むことになった。今後と同様に他事業所と協働して取り組める仕組みを作っていきたい。 ・みよし市は事業所同士の横の繋がりが強みなので、今年度も引き続き情報交換会を開催し「顔の見える関係」の構築を図っていく。 ◆優先調達について ・みよし市の令和7年度の実績は¥78,660となっており、内容は物品購入であった。役務はなし。優先調達は平成25年に施行されたが、みよし市ではメジャーになっていない現状がある。 ・役務は現状ほぼシルバー人材センターが担っている。シルバーと障がい分野で共有しながら活動できると良いのではないかな。 ・他市町では数百万の実績もある。継続して受託できる業務の模索を図る。 ・事業所側は単発の仕事だと請け負いにくい。生活の経済的な安心を目的とし、安定した工賃の支払いを確保するため継続的に受託できる仕事を希望している。 ・学校内業務の切り出しはできそうだが、職員の業務変更と予算執行の難しさがある。 ・担当課の福祉課は、市で切り出しが可能な仕事の把握、各担当課への周知を進める。 ・今後は2カ月に一度ワーキングを開催し、行政側の状況把握、事業所側が受託可能な仕事の整理をする。 （2）一般高校との情報交換について ・支援の必要な生徒が一般高校へ進学するケースが増加している。 ・ナカポツは、一般高校に対して就労移行支援を知ってもらうための情報交換会を企画している。自分の障がいや特性の理解が不足したまま一般高校に通う生徒が増え、一般高校の進路指導担当教諭に対して福祉サービス（就労移行）の紹介をし、就職や進学以外の選択肢を増やしてもらう取り組みを考えている。 ・将来を見通した進路選択ができない保護者が増えている。学校の課題としては、社会から求められる力を小中学校で身に着ける必要があり、教員の対応力が求められる。教員も福祉サービスの知識を習得する必要、学校教育と福祉の法律の違いを保護者に適切に説明する力が求められる。 ・情報を取得し易い環境があり、本人に必要な情報の選択が難しくなっている現状がある。
決定事項（まとめ）
・事業所同士の横の繋がりを強化する目的で情報交換会を開催する。 ・優先調達の業務切り出しに向け、引き続き近隣市町の状況把握を進めていく。 ・進路指導の選択肢を広げる情報交換会をナカポツが開催し、部会が協力する。

令和8（2026）年度 第1回精神保健福祉部会 会議録

開催日時：令和8年6月25日（木）

午前10時から正午まで

作成者氏名：社協 中村 美香

参加機関（参加者氏名）	
相談支援地域アドバイザー（阪田氏）、みよしはたらく協議会（兼重氏）、衣浦東部保健所（住田氏）、衣ヶ原病院（岩松氏）、豊田西病院（山下氏）、南豊田病院（山内氏）、和合病院（氏益氏）訪問看護ステーションのぞみ（藤本氏）、訪問看護ステーションLiG みよし（後町氏）、ヘルパーステーション笑の家（柿下氏、今津氏）、グラスホッパー（山口氏）、ワクわーく（塚部氏）、ドリームアップ（松田氏）、みよし市保険健康課（加藤氏）、みよし市福祉課（花岡氏）、みよし市社会福祉協議会（山下氏、中村）	
内容	
1 参加機関の紹介	
2 協議事項	
(1) 令和8（2026）年度のみよし市地域自立支援協議会について	組織図、協議内容など
(2) 精神保健福祉部会について	- 精神保健福祉部会の目的と内容 - 令和8（2026）年度の運営目的等の確認
(3) ピアサポーターが活動しやすい環境について	- 精神障がい者ピアサポート活用事業（仮称）について進捗報告 - リーフレット作成について進捗報告 - 部会員として、ピアサポーターが活動するためにできること（グループワーク）
(4) みよしの精神保健福祉の現状把握及び課題の整理について	- 社会資源確認について進捗報告 - 部会員として、「みよし市にあったらいいな」と思う社会資源
3 その他、連絡事項等	
(1) ガイドブックの見直しについて	
(2) 第2回精神保健福祉部会について	
詳細	
1 自己紹介	
2 協議事項	
(1) 組織図、協議内容について福祉課より説明。資料の通り。	
(2) 精神保健福祉部会について説明。目的、取組内容については資料の通り。	
(3) について	精神障がい者ピアサポート活用事業（仮称）について 現在活動しているピアサポーターの位置づけを明確にし、登録方法や報酬、活動費などの整理を行い、活動しやすい環境づくりを進めていく。新規事業としてではなく、障がい者等サポート事業の一つとして実施していきたいと考えている。予算的な面を含め、福祉課とも打合せを重ねながら、協議、検討していく。

- ・リーフレット作成について

ピアサポーターミーティングの中で打合せを行い、今年度中の完成を目指している。内容は、ピアサポーターとは、みよし市の活動について、などと予定している。予算の都合上、紙媒体ではなく、A4 両面のデータベースで作成を検討している。

- ・グループワーク【主な意見】

1 グループ（阪田氏、住田氏、山下氏、氏益氏、山内氏、岩松氏）

- ・南豊田病院：一昨年から2日間、ピアサポーターにきてもらい、話をしてもらった。医師の中にも、ピアに関して前向き人もいれば、必要性や効果が明確でない、と考え方の違いはある。その患者にとっていい刺激もあれば、良くない刺激もあると思う。新しいことを始めるということに慎重になる。優先順位もある。

- ・病棟全体ではなく、まずは患者一人に向けて少しずつ導入していけたら良いと思う。
- ・そういう活動があるということを知ってもらうということから始める。スタッフ向けに、医師も含めて、やってもらうのは良いと思う。

2 グループ（花岡氏、兼重氏、藤本氏、後町氏、柿下氏、今津氏）

- ・ピアサポーターという存在を知らない利用者がほとんどだと思う。存在を知ってもらう、情報を届けることが大前提だと思う。利用者にとってこういった恩恵を受けられるか、も大事。自分たちが支援に入っている利用者はそういったことを考えること自体が精いっぱいなこと。情報をどう伝えるかも大事。
- ・支援者側も、ピアサポーターにこういった支援をしてほしいのか、精神疾患を持った方がどんなことを希望されているのかをきちんと教えてもらうということも支援に入る側として大事だと思う。

3 グループ（加藤氏、山口氏、塚部氏、松田氏、中村）

- ・グラスホッパー：当事者間で集まる場を月に一回設けている。就職した人たちが自分たちで規約等作り、集まる会を作っている。悩み等を話す時間、それが機能している。
- ・ワクわーく：元利用者が職員になり、ピアのような立場で利用者の話を聞き、タイムリーに対応できるので、上手く機能している。B型事業所や相談支援事業所はピアサポーター配置加算が付く。A型事業所にも付くと良い。
- ・ドリームアップ：まずは職員向けにピアサポーターの話が聞けると良いという意見だった。
- ・保険健康課：養成しているゲートキーパーがある。ゲートキーパーのフォローアップで話を聞くのも良いと思う。

以上の意見も参考にしながら事務局で整理し、今年度又は次年度の取り組みつなげる。

- ・兼重氏より、ピアサポーター体験会のお知らせ。参加したいと思われる方がいれば案内してください。
- ・阪田氏より、ピアサポーターはとても有効。ベースは居場所だと思う。居場所づくりを主眼に置いて考えた方が良い。シエルブルーができたことは効果的で、そこに何らかの形でピアサポーターが参画するのがいいのではないか。障がいの程度を分けるつもりはないが、いろんな居場所があっていいし、そういう視点で構築していった方が事業もしやすいと思う。市で考える居場所みたいなものが作れる良いのかと思う。交流して活性化していく、それを基軸に考えてピアサポーターのあり方を

考えていくと、事業に結びつきやすいと思う。

(4) について

- ・阪田氏より、部会の一番の目的はシステムの構築。足りないパーツやパーツにパワーを注入していくことがよりシステム構築になっていく。重層は各層が役割を理解し、重なり合うこと意味している。みよし市でできること、できないことを基点に、重層の意味の正しい落とし込みが大事。事例から課題を理解し、足りない部分を見極めることが援助者の基本（ソーシャルワークの視点）であり、地域包括の議論ができる。層を厚くするため社会資源の整備を進めること。
- ・保険健康課：8050の課題。両親が子どもの通院を必要と感じても受診につなぐことができない。何とかならないかという相談が多い傾向にある。市役所の縦割りの部分が上手く相談につながらないこともある。→ふくしの窓口がある。そこに入れないのか。
- ・福祉課：重層で巻き込みながらやっていく。画期的と感じるのは、対象者の同意を得なくても会議が開催できること。法、公で動ける強み。8050問題でも、そうなった背景等関係機関が共有することが大事。
- ・衣ヶ原：受診が必要だが、病院まで行く手段がない、できない人への支援。移動支援ではなく、単発で練習できるとか。民間でやっているところもあるが、料金が結構かかる。福祉サービスは導入までに時間がかかる。少し手伝ってほしい、というニーズに応える何かがあるといい。

自宅でなら日中ひとりで安定して過ごせるが、ひとり暮らしはできない。グループホームは日中支援型じゃないと、活動の場へ行かないといけなから入居できない。→グループホームにそういう課題があるなら、ひとり暮らしの練習ができるところがあると良いと思う。

- ・保健所：受診の相談は多い。家族だけが希望しているパターンもある。体調が悪くなって受診が途絶えた人もいるが、訪看が入って上手くいったパターンもある。公共交通機関が使えない人も受診できるようなものがあると良いと思った。

保健所に連絡が入り、市につなごうとしてもどの課につなげれば良いか分からないこともある。相談先の窓口一覧があると良いと思った。→みよし市はふくしの窓口がある。

ヘルパーステーション：訪問時に不安定な方もいる。必要に応じて2人体制で入れると良い。

訪看：年齢を重ねた利用者で、受診をどうしようという方が多い。今までは夫（妻）が送迎してくれたが、高齢で運転ができなくなった、タクシーは高額で不安がある。転倒で寝たきりや動けない状態になったときに往診を入れようとしても、精神科の指示書を書いてもらえないと、介護保険に切り替わって料金が発生してしまうこともある。

事務局より、今年度は部会が年2回になっている。その間に話し合いができる場として、ワーキンググループを設置して進めたいと考えている。日程は決定済み。ぜひという方は入っていただきたい。事務局からもお声掛けさせてもらう。

(5) について

- ・ガイドブックは、家族会など修正が必要な部分があるため見直しをしていく。修正が必要な箇所があれば教えていただきたい。またこちらから確認させていただく場

合もあるのでご協力いただきたい。

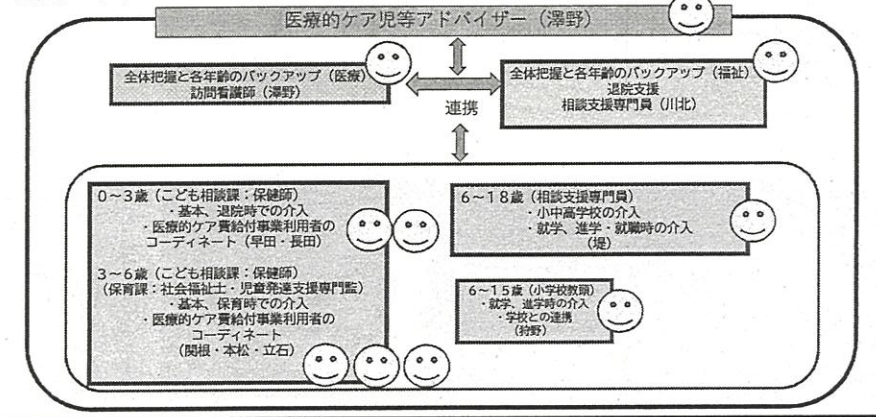
決定事項（まとめ）

- 1 グループワークで出された意見を事務局でまとめ、今年度又は次年度の取り組みに反映する。
- 2 社会資源の整理について、ワーキンググループを実施。令和８年８月１８日（火）時間未定。事務局より参加依頼をする。
- 3 第２回精神保健福祉部会
令和９年２月２５日（木）午前１０時から正午まで

医療的ケア児等コーディネーター配置図

令和8年4月現在

医療的ケア児等コーディネーター養成研修受講者には任命書を発行（現在9名）



みよし市医療的ケア児等コーディネーターの役割

①各機関（医療・福祉・保育・教育）との連携

医療的ケアが必要な方の環境等を整えるにあたり、必要な機関と適宜連携を図る。

各ライフステージの担当者が主担当として動く。

②退院前の環境アセスメントと退院時のカンファレンスの参加

医療機関より退院時の連絡がきた際、退院前に自宅の環境を確認する（動線等）。また退院カンファレンスに参加し、本人や家族の状況確認や訪問看護や医療機関の通院頻度の確認等を行う。退院後に自宅に訪問する。

退院の連絡（こども相談課又は福祉課）

→担当者から全体把握（川北）へ連絡し、参加の有無の確認。オープンチャットにて個人情報の特定に注意し、共有する。

③就学、進学時の会議や校外学習等前のカンファレンスの参加

就学・進学時に園や学校的环境調整のため、会議に参加する。また、校外学習等（修学旅行前等）の前にはカンファレンスを開き、本人情報の伝達を訪問看護と共に行う。

各ライフステージの担当者が主担当としてフローチャートをベースに時期を確認し動く。

みよし市医療的ケア児等コーディネーターの役割

○地域課題の集約と資源改善、開発

個別の関わりやWGの取り組みを通じ、必要な資源の開発を行う。

各自担当している方の情報をWGにて共有し、課題抽出を行い部会に提言する。部会にて課題解決に向けた取組を協議し、再度WGに戻す。

○保育士、幼稚園教諭、学校教員向け学習会協力や事業所向け研修会の開催

各課で行われる先生向けの研修会にコーディネーターの役割や取り組みについて周知啓発を行う。

事業所向けについては、連携強化を図るため研修会を開催する。

保育士向け研修（園長会等）は0～6歳、教員向け研修（ケア児が通学している学校、教務主任向け）は6～18歳、市内事業所向け研修（受け入れている市内事業所と訪問看護事業所）は全体把握の担当者で行う。

医療的ケア児等コーディネーター フロー図

医療的ケア児等アドバイザー：澤野

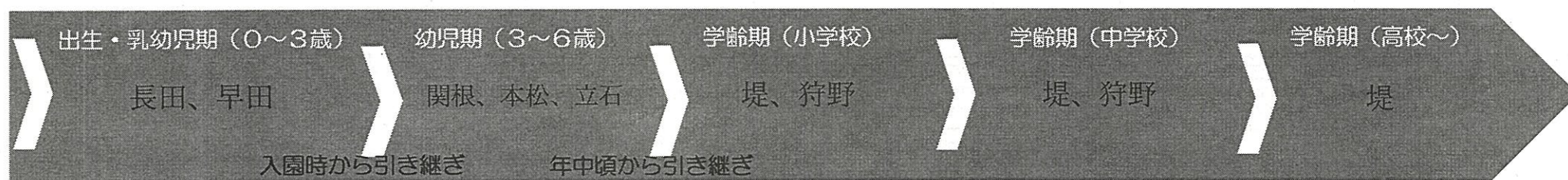
全体の把握と各年齢のバックアップ

医療：澤野 ⇄ 福祉：川北

0～3歳 こども相談課：長田、早田 6歳～18歳 相談支援専門員：堤
 3～6歳 こども相談課：関根 6歳～15歳 小学校教頭：狩野
 保育課：本松、立石

- ・入園に向けての調整（入園手続き3か月前頃）
- ・入学に向けての調整（年中5月頃から）
- ※学校教育課へ対象者情報の伝達、学校への情報提供
- ・担当者会議開催（年長1月頃）
- ※母、訪看、学教、学校、園、Co（学齢期、未就学担当）

- ・教員向け研修会開催（4月頃）
- ・教務主任向け研修開催（3月頃）
- ・自然教室・進路について話し合い（2年生5月頃）
- ・進路・修学旅行について話し合い（3年生5月頃）
- ・モニタリング会議開催（毎年・6月頃）



- ・退院支援・在宅の環境調整
- ・訪問看護や在宅医療の導入支援

- ・教員向け研修会開催（4月頃）
- ・中学校見学同行（5年生9月頃）
- ・修学旅行についての話し合い（修学旅行前）
- ・中学校進学に向けての調整（6年生2月頃）
- ・教務主任向け研修会開催（3月頃）

- ・教員向け研修会開催（4月頃）
- ・進路についての話し合い（2年生9月頃）